

業況DIは2.6ポイントの上昇、2期連続で改善

～令和8年1-3月期中小企業景気動向調査～

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）では、四半期ごとに県内中小企業の景気動向等を把握するため、県内中小企業2,000社を対象とした「中小企業景気動向調査」を実施しています。

令和8年1-3月期の調査結果をご報告いたします。

◇ 中小企業景気動向調査要旨

1. 調査結果（総合）特徴 ～ 総合の業況DIは上昇 ～

総合の業況DIは、前期比2.6ポイント上昇の▲20.5となりました。

また、今後については3か月後が現在比1.0ポイント低下の▲21.5、半年後は同1.3ポイント低下の▲21.8を見込んでいます。

2. 業種別特徴 ～ 業況DI、電気機械、飲食店を除くすべての業種で上昇 ～

製造業の業況DIは、前期比1.7ポイント上昇の▲15.7となりました。中分類で見ると、一般機械（同7.0ポイント上昇の▲8.3）、電気機械（同1.1ポイント低下の▲9.6）と輸送用機械（同6.1ポイント上昇の0.0）となりました。

建設業の業況DIは、前期比0.1ポイント上昇の▲2.5となりました。

商業・サービス業の業況DIは、前期比3.5ポイント上昇の▲28.5となりました。内訳を見ると、卸売業（同2.9ポイント上昇の▲30.8）、小売業（同2.3ポイント上昇の▲39.2）、飲食店（同4.0ポイント低下の▲31.7）、サービス業（同9.1ポイント上昇の▲9.4）となり、飲食店を除いて改善しました。

また、3か月後は製造業が現在比2.2ポイント上昇の▲13.5、建設業が同8.2ポイント低下の▲10.7、商業・サービス業が同1.2ポイント低下の▲29.7、半年後は製造業が同5.0ポイント上昇の▲10.7、建設業が同8.2ポイント低下の▲10.7、商業・サービス業が同3.8ポイント低下の▲32.3を見込んでおり、業種によりばらつきのある結果となりました。

3. 規模別特徴 ～ 小規模企業はいずれのDIも低下 ～

業況DIは、中規模企業が前期比7.0ポイント上昇の▲11.0、小規模企業は同2.6ポイント低下の▲31.5となりました。

売上DIは、中規模企業が同4.8ポイント低下の▲6.3、採算DIが同4.8ポイント上昇の▲15.2、小規模企業が同8.5ポイント低下の▲26.5、採算DIが同4.6ポイント低下の▲31.6となり、小規模企業はいずれも低下しました。

4. 地区別特徴 ～ 業況DI、5地区が上昇 ～

地区別の業況DIでは前期より上昇したのは5地区（横浜、川崎、横須賀、相模原、厚木）、同DIは1地区（平塚）で、低下したのは2地区（藤沢、足柄上・西湘）でした。特に変化の大きかったのは横須賀（前期比13.3ポイント上昇の▲15.9）と足柄上・西湘（同12.8ポイント低下の▲32.6）でした。

3ヵ月後は、現在比で2地区（厚木、足柄上・西湘）を除く6地区（横浜、川崎、横須賀、平塚、藤沢、相模原）が低下すると見込んでいます。

半年後では、現在比で上昇するのは2地区（厚木、足柄上・西湘）、今期と同DIは2地区（横須賀、相模原）、低下するのは4地区（横浜、川崎、平塚、藤沢）を見込んでいます。

5. その他（経営状況、前期経営実績、主なコメント）

～ 経営状況では、総合の売上DIが低下 ～

経営状況では、「売上」が総合で前期比6.6ポイント低下の▲15.8となり、業種別では、建設業が上昇（同3.5ポイント上昇の1.7）したものの、製造業（同9.3ポイント低下の▲9.6）、サービス業（同7.2ポイント低下の▲24.4）はいずれも低下しました。

コメントでは、「原材料である銅単価の高騰により、取引先への価格交渉を行ってはいるものの、現状では利益率が悪化している。」「人件費や原材料高騰のため、厳しい状況は変わらない。」

「1人あたりの単価が減っています。買い控えもあると思います。」などの声が上がっていました。

令和8年1-3月期中小企業景気動向調査結果

1. 調査要領

- ・調査時期：令和8年2月
- ・調査対象：神奈川県内中小企業2,000社
- ・回答数（率）：911社（45.6%） ※詳細は下記の通り
- ・調査方法：調査対象へ郵送
- ・分析方法：DI（Diffusion Index）※による分析

※業況等について「良い」と回答した企業の割合から「悪い」と回答した企業の割合を引いた数値

区分	送付数	回答数	回答率（%）
製造業	550	318	57.8%
建設業	250	122	48.8%
商業・サービス業 （卸売業、小売業、飲食店、サービス業）	1,200	471	39.3%
合計	2,000	911	45.6%

2. 調査結果

（1）総合

	令和7年			令和8年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
業況DI	▲24.8	▲25.1	▲23.1	▲20.5	▲21.5	▲21.8
売上DI	▲16.6	▲12.3	▲9.2	▲15.8	—	—
採算DI	▲24.7	▲23.8	▲23.2	▲22.9	—	—

総合の業況DIは、前期比2.6ポイント上昇の▲20.5となった。

経営状況では、売上DIは前期比6.6ポイント低下の▲15.8、また、採算DIは同0.3ポイント上昇の▲22.9となった。

今後の業況DIを見ると、3か月後は現在比1.0ポイント低下の▲21.5、半年後は同1.3ポイント低下の▲21.8を見込んでいる。

（2）業種別特徴

<製造業>

	令和7年			令和8年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
業況DI	▲27.0	▲25.2	▲17.4	▲15.7	▲13.5	▲10.7
売上DI	▲20.0	▲8.3	▲0.3	▲9.6	—	—
採算DI	▲21.0	▲17.2	▲12.9	▲19.7	—	—

製造業の今期の業況DIは、前期比1.7ポイント上昇の▲15.7となった。

経営状況では、売上DIは、前期比9.3ポイント低下の▲9.6、採算DIは同6.8ポイント低下の▲19.7となった。

「下請法改正に伴い単価交渉が進展し、収益性が改善された。物価、人件費の上昇が続く中、そのコスト増を継続的に販売単価へ転嫁できるかは、中小企業において重要課題となってきている。」「以前より、取引先が価格転嫁に協力的になりましたが、在庫を持たなくなり、短納期での注文が多くなった。」「防衛関連やAI関連の設備投資に伴う引き合いが、徐々に増加。米国関税の影響も、現状では限定的と感じる。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比2.2ポイント上昇の▲13.5、半年後は同5.0ポイント上昇の▲10.7を見込んでおり、「半導体業界全体は、回復しつつあるが、検査装置の需要回復にはもう少し時間がかかる。」「低迷状態が長く続いている。いつ好転になるか分からない。先行き不安だらけです。」といった声も聞かれた。

なお、製造業の中分類の業況DIは以下の通り。

	令和7年			令和8年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
一般機械	▲15.5	▲28.9	▲15.3	▲8.3	▲6.0	▲3.6
電気機械	▲23.0	▲18.2	▲8.5	▲9.6	▲9.6	▲4.1
輸送用機械	▲36.5	▲10.6	▲6.1	0.0	▲8.3	▲4.3
その他	▲33.9	▲32.5	▲29.1	▲31.9	▲23.9	▲23.0

中分類で見ると、一般機械は前期比7.0ポイント上昇の▲8.3、電気機械は同1.1ポイント低下の▲9.6、輸送用機械は同6.1ポイント上昇の0.0となった。

今後の業況DIは、3か月後は一般機械が現在比2.3ポイント上昇の▲6.0、電気機械が今期と同じ▲9.6、輸送用機械は同8.3ポイント低下の▲8.3、半年後は一般機械が同4.7ポイント上昇の▲3.6、電気機械が同5.5ポイント上昇の▲4.1、輸送用機械は同4.3ポイント低下の▲4.3を見込んでいる。

< 建設業 >

	令和7年			令和8年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
業況DI	0.0	4.1	▲2.6	▲2.5	▲10.7	▲10.7
売上DI	▲10.3	2.5	▲1.8	1.7	—	—
採算DI	▲19.0	▲0.8	▲16.1	▲10.8	—	—

建設業の今期の業況DIは、前期比0.1ポイント上昇の▲2.5となった。

経営状況では、売上DIは前期比3.5ポイント上昇の1.7、採算DIは同5.3ポイント上昇の▲10.8となった。

「仕事の引き合いはあるが、人が足りなくて断っている状況。」「材料費、労務費が上り、利益の確保が厳しい。官庁工事についても予算が低く採算が悪くなっている。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比8.2ポイント低下の▲10.7、半年後も同8.2ポイント低下の▲10.7を見込んでおり、「民間は好調ですが、官公庁が競争入札の為受注できない。今後も官公庁受注は期待できない。」「人手不足と物価高が見通せない。」といった声も聞かれた。

< 商業・サービス業 >

	令和7年			令和8年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
業況DI	▲29.4	▲32.2	▲32.0	▲28.5	▲29.7	▲32.3
売上DI	▲15.9	▲18.6	▲17.2	▲24.4	—	—
採算DI	▲28.7	▲33.9	▲32.2	▲28.1	—	—

商業・サービス業の業況DIは、前期比3.5ポイント上昇の▲28.5となった。

経営状況では、売上DIは前期比7.2ポイント低下の▲24.4、採算DIは同4.1ポイント上昇の▲28.1となった。「1人あたりの単価が減っています。買い控えもあると思います。」「物価高により、売上が減っている。仕入価格も高くなり、採算も悪くなっている。」「慢性的な人手不足のため、人材確保に苦慮している。」「原価が上がり、売価も上げざるを得ない。売価が高ければ買い渋りが起き、新規顧客の開拓も困難。給与を上げたいものの社会保険料の負担も重く、利益率が上がるわけではないので、なかなか厳しい。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比1.2ポイント低下の▲29.7、半年後は同3.8ポイント低下の▲32.3を見込んでいる。「廃業する同業者が多く、この業界の先細り感は否めない。」「中東問題で、間違いなく更に商売が厳しくなる。」「昨年主力商品のコーヒーを2回値上げしたが、利益は圧縮されている。今後も高止まりが続くと予想される中、人件費は上がり続けているため、売上の減少は避けなければならない。」といった声も聞かれた。

なお、商業・サービス業の各々の業況DIは以下の通り。

	令和7年			令和8年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
卸売業	▲29.6	▲30.0	▲33.7	▲30.8	▲39.3	▲38.2
小売業	▲40.1	▲41.0	▲41.5	▲39.2	▲38.8	▲43.1
飲食店	▲18.2	▲24.2	▲27.7	▲31.7	▲21.0	▲16.1
サービス業	▲17.2	▲24.6	▲18.5	▲9.4	▲13.5	▲20.0

業種別では、卸売業は前期比2.9ポイント上昇の▲30.8、小売業は同2.3ポイント上昇の▲39.2、飲食店は同4.0ポイント低下の▲31.7、サービス業は同9.1ポイント上昇の▲9.4となった。

今後の業況DIは、3か月後では卸売業が現在比8.5ポイント低下の▲39.3、小売業は同0.4ポイント上昇の▲38.8、飲食店は同10.7ポイント上昇の▲21.0、サービス業は同4.1ポイント低下の▲13.5、半年後では卸売業が同7.4ポイント低下の▲38.2、小売業は同3.9ポイントト低下の▲43.1、飲食店は同15.6ポイント上昇の▲16.1、サービス業は同10.6ポイント低下の▲20.0を見込んでいる。

(3) 規模別特徴

		令和7年			令和8年		
		4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
中規模	業況DI	▲15.1	▲17.4	▲18.0	▲11.0	▲14.9	▲16.6
	売上DI	▲10.1	▲5.8	▲1.5	▲6.3	—	—
	採算DI	▲20.7	▲20.4	▲20.0	▲15.2	—	—
小規模	業況DI	▲36.1	▲34.0	▲28.9	▲31.5	▲29.0	▲27.9
	売上DI	▲24.3	▲19.9	▲18.0	▲26.5	—	—
	採算DI	▲29.4	▲27.9	▲27.0	▲31.6	—	—

規模別の業況DIは、中規模企業は前期比7.0ポイント上昇の▲11.0、小規模企業は同2.6ポイント低下の▲31.5となった。

経営状況では、中規模企業は売上DIが前期比4.8ポイント低下の▲6.3、採算DIが同4.8ポイント上昇の▲15.2、小規模企業は売上DIが同8.5ポイント低下の▲26.5、採算DIが同4.6ポイント低下の▲31.6となった。

今後の業況DIについては、中規模企業は3か月後が現在比3.9ポイント低下の▲14.9、半年後が同5.6ポイント低下の▲16.6、小規模企業は3か月後が同2.5ポイント上昇の▲29.0、半年後が同3.6ポイント上昇の▲27.9を見込んでいる。

(4) 地区別特徴 (業況DI)

	令和7年			令和8年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
横浜	▲20.9	▲20.8	▲24.3	▲18.5	▲19.4	▲19.0
川崎	▲28.0	▲27.6	▲17.9	▲10.5	▲16.4	▲24.6
横須賀	▲24.7	▲17.2	▲29.2	▲15.9	▲17.0	▲15.9
平塚	▲23.4	▲41.7	▲27.4	▲27.4	▲29.8	▲29.8
藤沢	▲28.7	▲18.6	▲17.0	▲23.0	▲24.2	▲27.6
相模原	▲31.7	▲28.4	▲28.0	▲21.5	▲22.8	▲21.5
厚木	▲27.2	▲22.7	▲21.9	▲20.8	▲18.9	▲20.0
足柄上・西湘	▲19.6	▲29.2	▲19.8	▲32.6	▲27.4	▲18.9

今期の地区別の業況DIは、

横浜地区（前期比5.8ポイント上昇の▲18.5）、川崎地区（同7.4ポイント上昇の▲10.5）、横須賀地区（同13.3ポイント上昇の▲15.9）、平塚地区（前期と同じ▲27.4）、藤沢地区（同6.0ポイント低下の▲23.0）、相模原地区（同6.5ポイント上昇の▲21.5）、厚木地区（同1.1ポイント上昇の▲20.8）、足柄上・西湘地区（同12.8ポイント低下の▲32.6）となり5地区で上昇し、1地区で前期と同じ、2地区で低下となった。

今後の業況DIは、3か月後は、

横浜地区（現在比0.9ポイント低下の▲19.4）、川崎地区（同5.9ポイント低下の▲16.4）、横須賀地区（同1.1ポイント低下の▲17.0）、平塚地区（同2.4ポイント低下の▲29.8）、藤沢地区（同1.2ポイント低下の▲24.2）、相模原地区（同1.3ポイント低下の▲22.8）、厚木地区（同1.9ポイント上昇の▲18.9）、足柄上・西湘地区（同5.2ポイント上昇の▲27.4）となり2地区で上昇し、6地区で低下すると見込んでいる。

半年後は、

横浜地区（現在比0.5ポイント低下の▲19.0）、川崎地区（同14.1ポイント低下の▲24.6）、横須賀地区（今期と同じ▲15.9）、平塚地区（同2.4ポイント低下の▲29.8）、藤沢地区（同4.6ポイント低下の▲27.6）、相模原地区（今期と同じ▲21.5）、厚木地区（同0.8ポイント上昇の▲20.0）、足柄上・西湘地区（同13.7ポイント上昇の▲18.9）となり2地区で上昇し、2地区で前期と同じ、4地区で低下すると見込んでいる。

▼本件に関するお問い合わせ先

(公財) 神奈川産業振興センター (KIP)

(Kanagawa Industrial Promotion Center)

総務部 企画広報課 徳田

TEL:045-633-5101 FAX:045-633-5018

URL <https://www.kipc.or.jp/> E-mail:kikaku@kipc.or.jp

景気動向調査 (令和8年1月～3月期)

業種別DI表

		製造業	建設業	商業・サービス業				総合	
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業		小計
回収数		318	122	91	190	63	127	471	911
業況判断	現在の業況	▲15.7	▲2.5	▲30.8	▲39.2	▲31.7	▲9.4	▲28.5	▲20.5
	3ヶ月後の業況	▲13.5	▲10.7	▲39.3	▲38.8	▲21.0	▲13.5	▲29.7	▲21.5
	半年後の業況	▲10.7	▲10.7	▲38.2	▲43.1	▲16.1	▲20.0	▲32.3	▲21.8
経営状況	売上	▲9.6	1.7	▲31.5	▲32.3	▲20.6	▲9.4	▲24.4	▲15.8
	採算	▲19.7	▲10.8	▲21.3	▲34.6	▲47.6	▲13.4	▲28.1	▲22.9
	引き合い/客数	▲4.8	3.4	▲13.5	▲34.8	▲34.9	▲9.4	▲23.8	▲13.6
	単価	20.1	19.2	2.2	▲11.8	19.4	7.1	0.2	9.7
	仕入価格	▲65.0	▲75.0	▲56.7	▲74.3	▲90.5	▲59.5	▲69.1	▲68.4
	資金繰り	▲18.8	▲12.5	▲20.0	▲32.3	▲38.1	▲22.0	▲27.9	▲22.7
	残業	▲4.5	▲7.6	▲13.3	▲14.8	▲11.5	▲10.3	▲12.8	▲9.2
	設備稼働	▲6.4	2.5	—	—	—	—	—	▲3.9
前期経営実績	売上水準	▲5.1	▲0.8	▲12.2	▲29.6	▲12.9	▲7.1	▲17.8	▲11.1
	利益水準	11.5	14.2	5.6	▲18.3	▲9.7	▲1.6	▲8.0	1.8
	在庫	8.7	4.3	11.1	▲0.5	3.2	▲9.0	0.0	3.6
	投資	▲1.6	▲1.7	▲12.4	▲11.8	▲11.1	▲4.1	▲9.7	▲5.8
	雇用状況	▲25.8	▲48.3	▲22.2	▲21.9	▲27.4	▲40.5	▲27.8	▲29.8

参考<前回調査>

景気動向調査 (令和7年10月～12月期)

		製造業	建設業	商業・サービス業				総合	
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業		小計
回収数		322	115	93	189	65	124	471	908
業況判断	現在の業況	▲17.4	▲2.6	▲33.7	▲41.5	▲27.7	▲18.5	▲32.0	▲23.1
	3ヶ月後の業況	▲21.3	▲7.9	▲42.2	▲42.8	▲20.3	▲25.0	▲34.8	▲26.6
	半年後の業況	▲20.1	▲14.9	▲37.1	▲49.7	▲18.8	▲26.6	▲36.9	▲28.1
経営状況	売上	▲0.3	▲1.8	▲15.6	▲26.0	▲15.6	▲5.9	▲17.2	▲9.2
	採算	▲12.9	▲16.1	▲25.6	▲39.4	▲53.1	▲14.7	▲32.2	▲23.2
	引き合い/客数	▲3.5	5.4	▲14.4	▲36.1	▲28.1	▲5.9	▲22.8	▲12.3
	単価	19.6	25.9	14.6	▲17.2	4.7	9.4	▲0.9	9.9
	仕入価格	▲64.7	▲72.3	▲67.8	▲77.9	▲84.4	▲61.2	▲72.5	▲69.7
	資金繰り	▲16.5	▲11.6	▲20.2	▲38.5	▲34.9	▲21.4	▲29.9	▲22.7
	残業	▲2.2	▲14.3	▲11.1	▲13.6	▲17.2	▲9.4	▲12.5	▲9.0
	設備稼働	▲3.8	▲6.4	—	—	—	—	—	▲4.5
前期経営実績	売上水準	▲18.9	▲3.6	▲20.9	▲35.6	▲23.4	▲13.7	▲25.2	▲20.2
	利益水準	3.8	14.3	▲1.1	▲17.3	▲29.7	1.7	▲10.9	▲2.4
	在庫	8.9	0.0	6.8	▲0.6	▲4.7	▲1.8	0.0	3.2
	投資	▲6.6	▲6.4	▲13.3	▲18.3	▲23.4	▲7.1	▲15.2	▲10.9
	雇用状況	▲25.2	▲46.4	▲15.6	▲24.0	▲29.7	▲42.1	▲27.8	▲29.2

規模別DI表

		製造業		建設業		商業・サービス業		総合	
		中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業
回収数		161	157	61	61	262	209	484	427
業 況 判 断	現在の業況	▲5.0	▲26.8	4.9	▲9.8	▲18.3	▲41.3	▲11.0	▲31.5
	3ヶ月後の業況	▲8.7	▲18.5	▲6.6	▲15.0	▲20.7	▲41.2	▲14.9	▲29.0
	半年後の業況	▲7.5	▲14.1	▲11.5	▲10.0	▲23.5	▲43.6	▲16.6	▲27.9
経 営 状 況	売上	0.6	▲19.9	11.7	▲8.5	▲14.6	▲36.7	▲6.3	▲26.5
	採算	▲12.0	▲27.6	0.0	▲22.0	▲20.7	▲37.4	▲15.2	▲31.6
	引き合い/客数	8.2	▲17.9	9.8	▲3.4	▲14.6	▲35.6	▲4.0	▲24.6
	単価	24.1	16.0	21.3	16.9	4.7	▲5.4	13.2	5.7
	仕入価格	▲60.8	▲69.2	▲75.4	▲74.6	▲65.9	▲73.2	▲65.4	▲71.9
	資金繰り	▲11.4	▲26.5	▲6.6	▲18.6	▲20.7	▲37.1	▲15.8	▲30.5
	残業	2.5	▲11.5	▲5.0	▲10.2	▲11.2	▲14.9	▲5.9	▲12.9
	設備稼働	0.0	▲12.8	3.3	1.8	—	—	0.9	▲8.9
前 期 経 営 実 績	売上水準	3.8	▲14.1	6.6	▲8.5	▲8.4	▲29.9	▲2.5	▲21.0
	利益水準	24.1	▲1.3	32.8	▲5.1	7.7	▲27.9	16.3	▲14.8
	在庫	15.2	1.9	3.3	5.4	0.8	▲1.0	5.9	1.0
	投資	8.2	▲11.6	9.8	▲14.0	▲4.7	▲16.1	1.5	▲14.1
	雇用状況	▲31.0	▲20.5	▲55.7	▲40.7	▲34.6	▲18.9	▲36.1	▲22.6

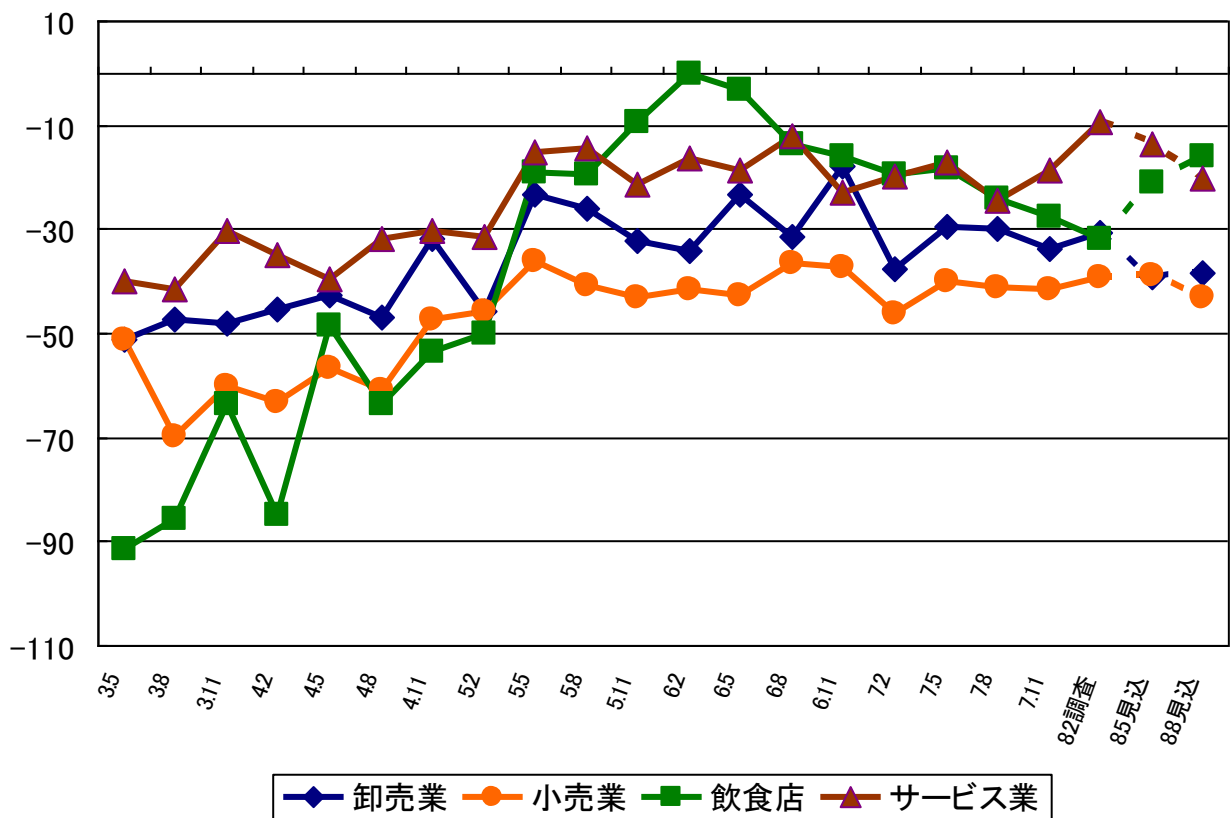
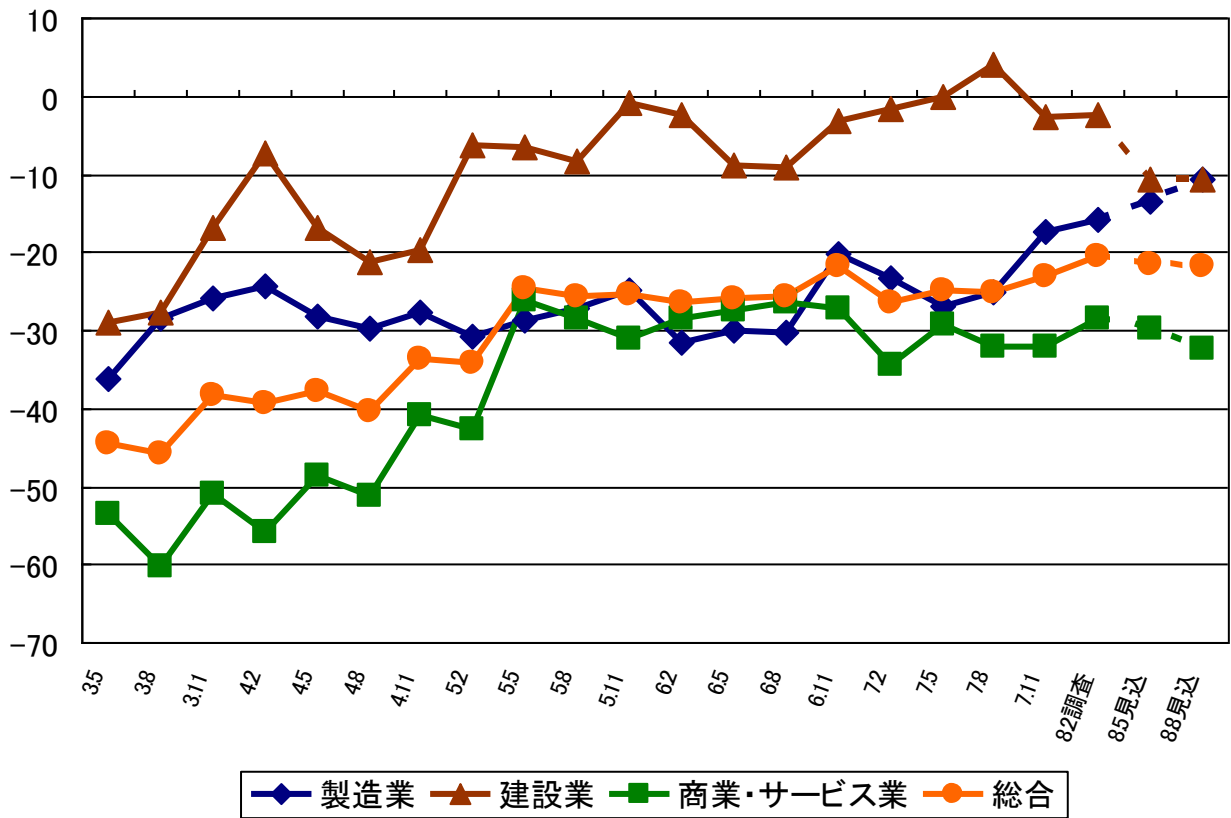
地区別DI表

		横浜	川崎	横須賀	平塚	藤沢	相模原	厚木	足柄上・西湘	総合
回収数		234	124	88	95	100	79	96	95	911
業 況 判 断	現在の業況	▲18.5	▲10.5	▲15.9	▲27.4	▲23.0	▲21.5	▲20.8	▲32.6	▲20.5
	3ヶ月後の業況	▲19.4	▲16.4	▲17.0	▲29.8	▲24.2	▲22.8	▲18.9	▲27.4	▲21.5
	半年後の業況	▲19.0	▲24.6	▲15.9	▲29.8	▲27.6	▲21.5	▲20.0	▲18.9	▲21.8
経 営 状 況	売上	▲14.1	▲10.0	▲14.9	▲23.4	▲14.4	▲16.5	▲12.5	▲24.5	▲15.8
	採算	▲21.9	▲12.4	▲20.7	▲36.2	▲26.8	▲25.3	▲14.6	▲29.8	▲22.9
	引き合い/客数	▲7.3	▲14.9	▲12.5	▲28.3	▲22.7	▲5.1	▲19.8	▲5.3	▲13.6
	単価	9.1	19.3	13.6	2.1	7.4	7.6	8.3	8.5	9.7
	仕入価格	▲70.4	▲72.3	▲61.4	▲66.0	▲77.3	▲60.8	▲62.5	▲71.3	▲68.4
	資金繰り	▲19.8	▲18.3	▲19.3	▲30.9	▲24.0	▲29.1	▲16.7	▲29.8	▲22.7
	残業	▲6.5	▲0.8	▲6.8	▲18.3	▲13.7	▲7.7	▲9.5	▲16.1	▲9.2
	設備稼働	0.0	▲6.6	22.2	▲17.1	▲14.0	4.3	▲1.9	▲22.0	▲3.9
前 期 経 営 実 績	売上水準	▲11.7	▲1.7	▲12.5	▲23.4	▲16.5	▲11.4	▲8.3	▲5.3	▲11.1
	利益水準	6.9	5.8	0.0	▲16.0	▲1.0	0.0	15.8	▲6.4	1.8
	在庫	2.2	3.4	▲2.3	4.3	3.2	6.3	5.2	8.5	3.6
	投資	▲6.3	▲5.9	2.3	▲11.7	▲8.2	▲3.8	1.1	▲12.0	▲5.8
	雇用状況	▲35.2	▲32.2	▲33.0	▲23.4	▲32.0	▲41.8	▲18.8	▲16.1	▲29.8

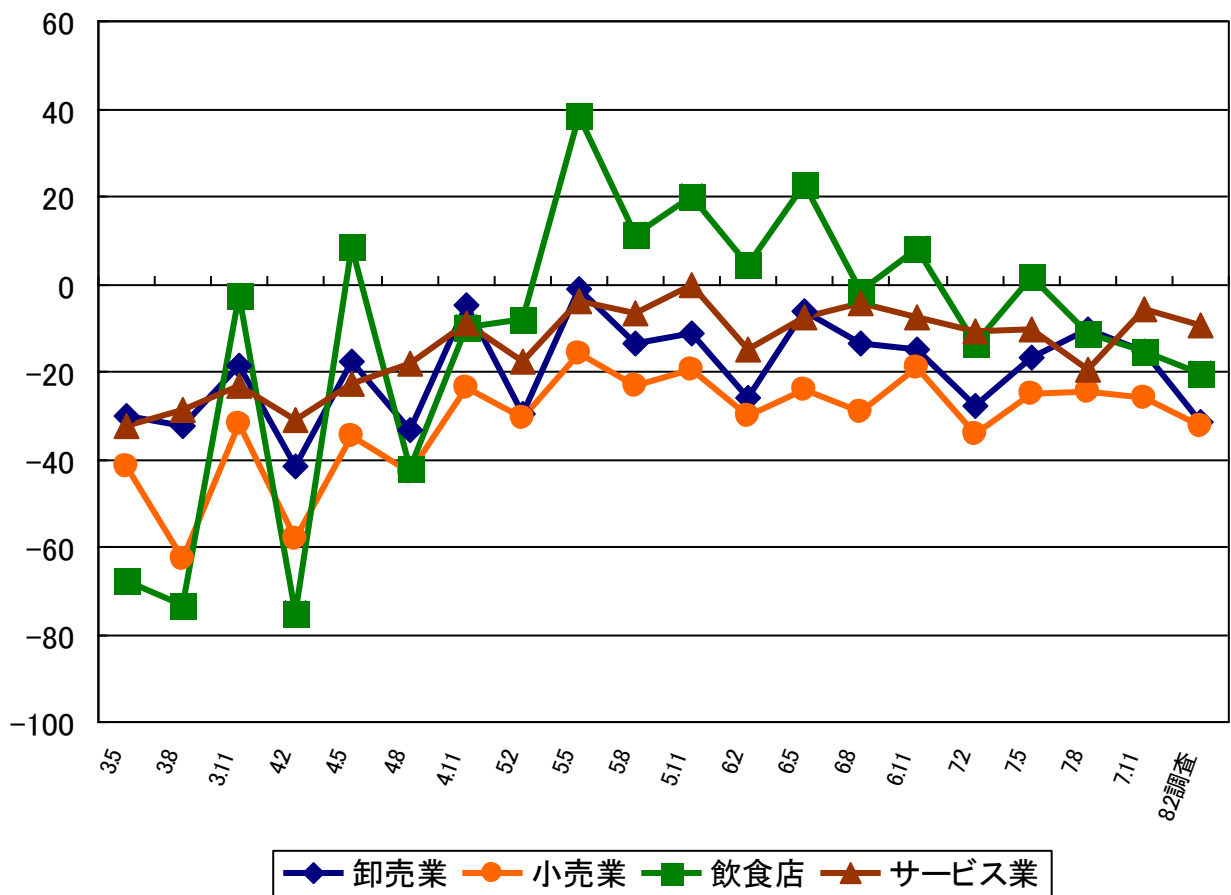
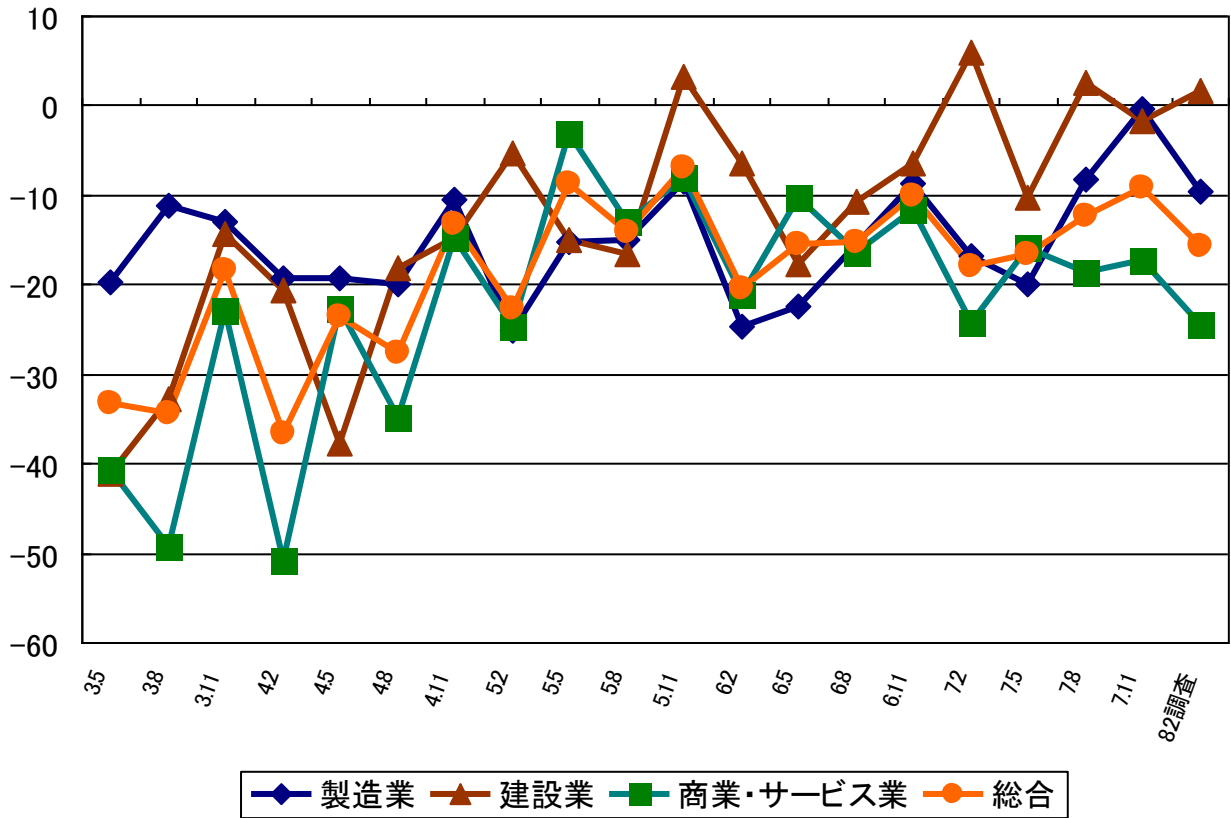
製造業中分類別DI表

		一般機械	電気機械	輸送用機械	その他	総合
回収数		84	73	48	113	318
業 況 判 断	現在の業況	▲8.3	▲9.6	0.0	▲31.9	▲15.7
	3ヶ月後の業況	▲6.0	▲9.6	▲8.3	▲23.9	▲13.5
	半年後の業況	▲3.6	▲4.1	▲4.3	▲23.0	▲10.7
経 営 状 況	売上	▲10.7	▲11.0	2.2	▲12.5	▲9.6
	採算	▲16.7	▲15.1	▲20.0	▲25.0	▲19.7
	引き合い/客数	6.0	▲13.7	2.2	▲9.8	▲4.8
	単価	11.9	34.2	11.1	20.5	20.1
	仕入価格	▲57.1	▲75.3	▲64.4	▲64.3	▲65.0
	資金繰り	▲14.3	▲16.4	▲11.1	▲27.0	▲18.8
	残業	▲1.2	▲4.1	4.4	▲10.7	▲4.5
	設備稼働	▲2.4	4.1	8.9	▲22.3	▲6.4
前 期 経 営 実 績	売上水準	0.0	0.0	0.0	▲14.3	▲5.1
	利益水準	20.2	12.3	6.7	6.3	11.5
	在庫	8.4	12.3	2.2	9.0	8.7
	投資	▲7.1	1.4	11.1	▲4.5	▲1.6
	雇用状況	▲31.0	▲20.5	▲33.3	▲22.3	▲25.8

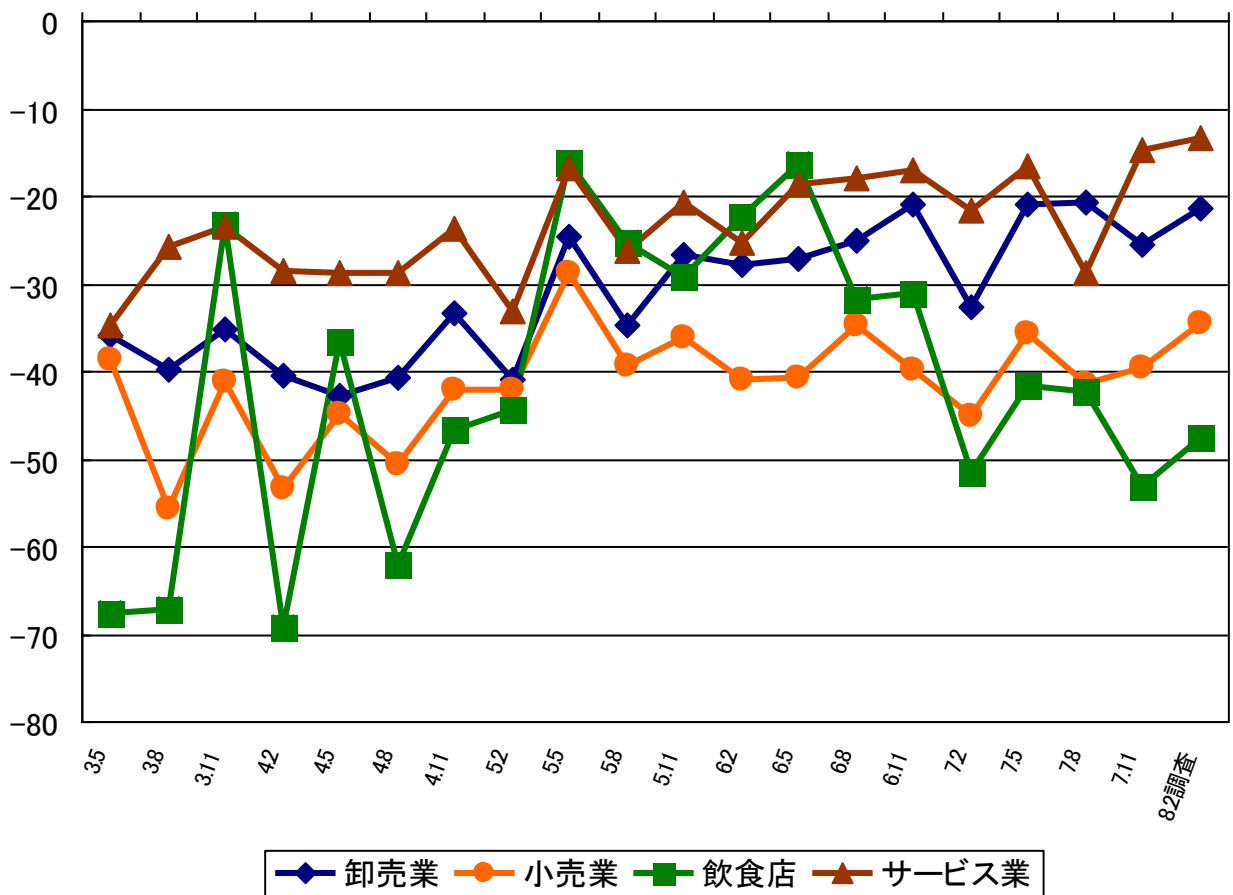
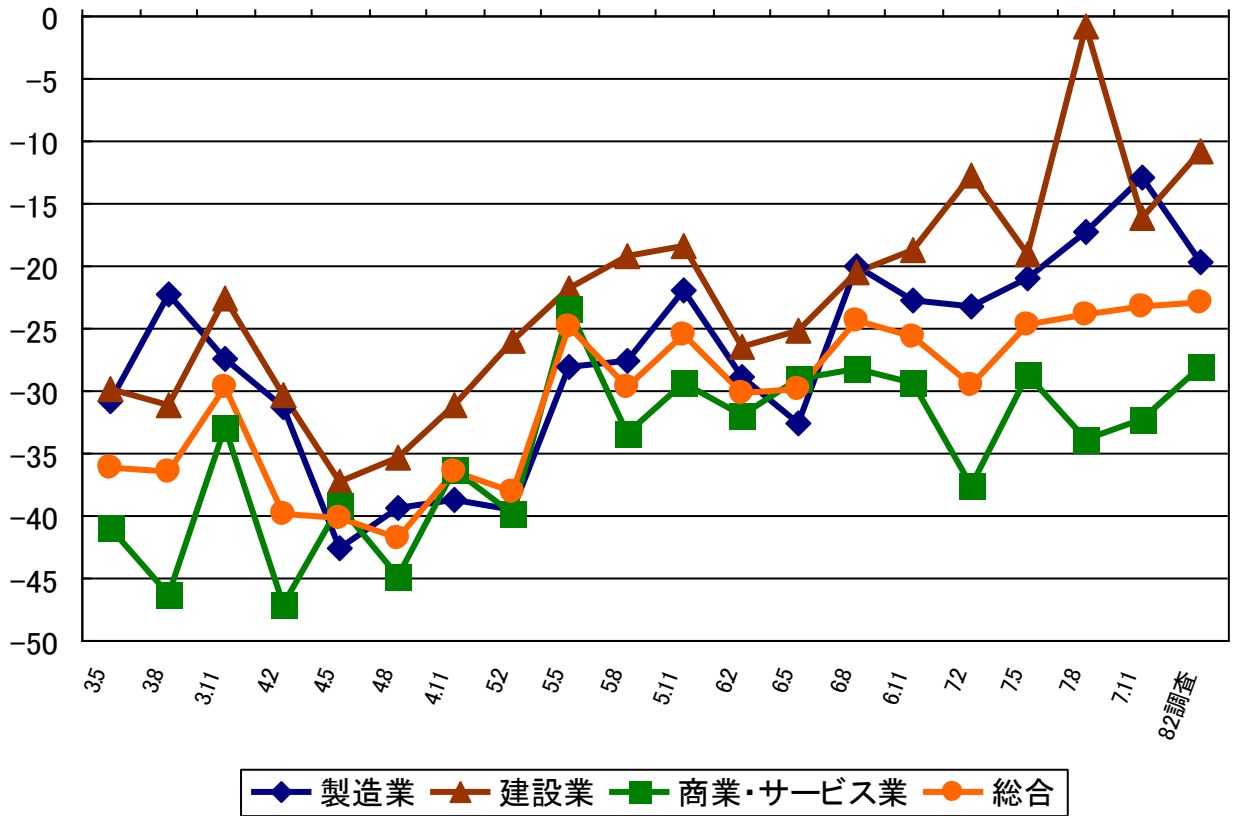
業況DIの推移



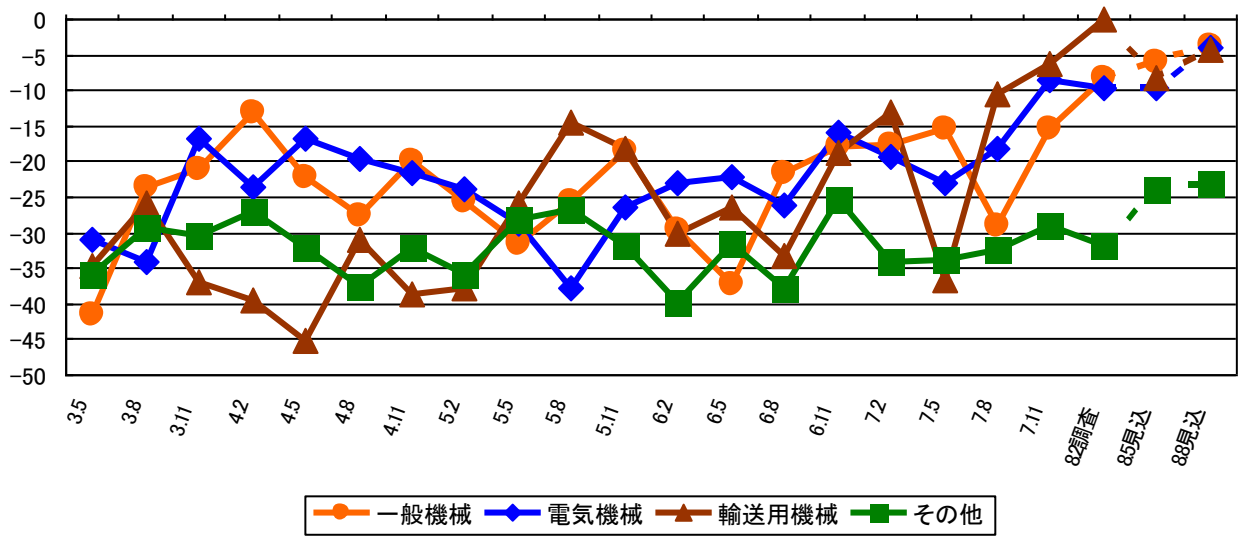
売上DIの推移



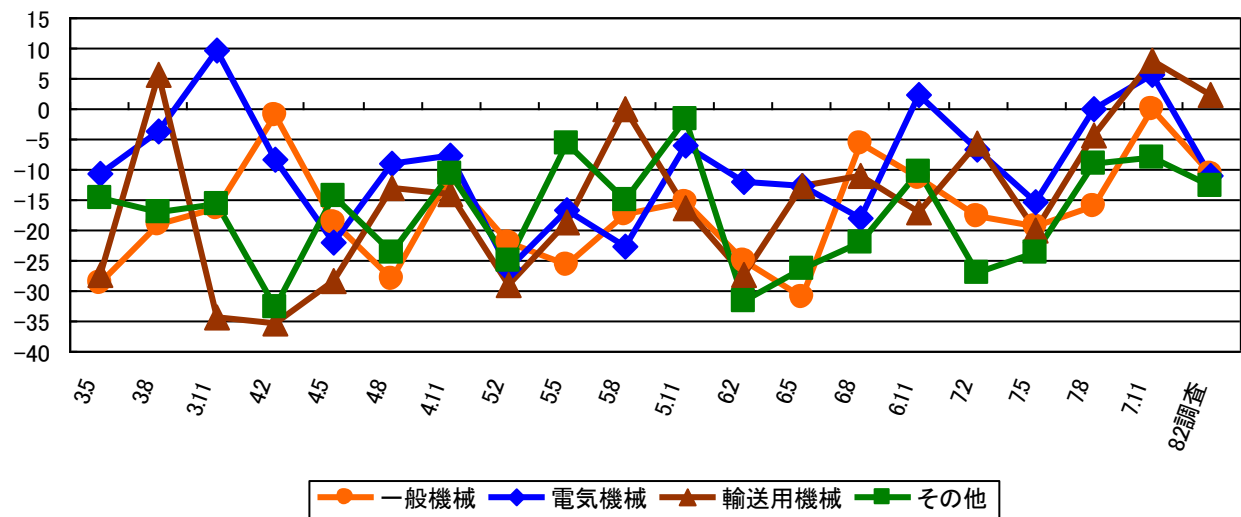
採算DIの推移



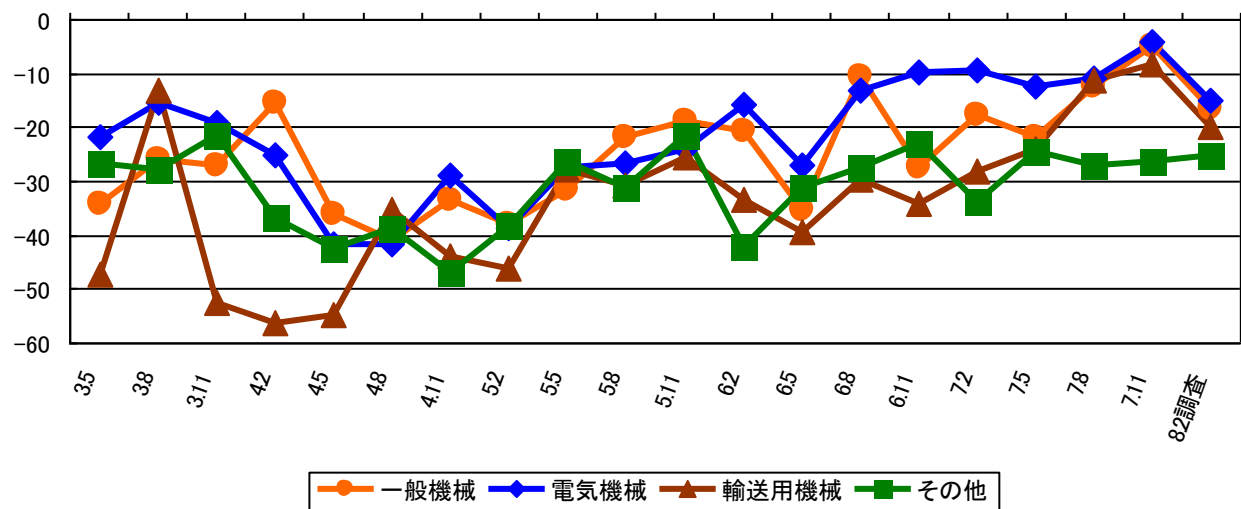
製造業(中分類)業況DIの推移



製造業(中分類)売上DIの推移



製造業(中分類)採算DIの推移



調査回答企業からのコメント(一部)

<製造業>

「貴金属等の材料費が高騰していくため、在庫管理がより一層難しくなっている。材料費の相場上昇分は顧客に一部請求出来ているのでしているため材料費高騰の影響は少ない。ただ、材料品の値上がり分として売上げは伸びているが、利益率は売上げの伸びに比べて大きくなっていない。今後は材料費の影響をできるだけ軽減できるかである。」
「海外からの受注好調。為替相場の影響大きい。トランプ関税の影響大。」
「主要顧客の1社が、ものづくりからソフトウェアへ業態を変えてきており、受注への影響が大きい。全体的には売価是正を実行し、材料費の高騰を吸収し始めたところであり、利益面では改善方向に向かうことを期待している。」
「当初計画より出遅れの感有り。徐々に回復を期待。金・銀の高騰が懸念される。」
「新規造船向けが好調に推移している。船舶以外の客先のほとんどは低迷中。」
「防衛関連やAI関連の設備投資に伴う引き合いが、徐々に増加。米国関税の影響も、現状では限定的と感じる。」
「人件費や原材料高騰のため、厳しい状況は変わらない。」
「下請法改正に伴い単価交渉が進展し、収益性が改善された。物価、人件費の上昇が続く中、そのコスト増を継続的に販売単価へ転嫁できるかは、中小企業において重要課題となってきた。」
「半導体業界全体は、回復しつつあるが、検査装置の需要回復にはもう少し時間がかかる。」
「材料の単価が上がっている。急に上がるので、なかなか客先への単価値上げのお願いをする事が難しい。」
「原材料である銅単価の高騰により、取引先への価格交渉を行ってはいるものの、現状では利益率が悪化している。」
「低迷状態が長く続いている。いつ好転になるか分からない。先行き不安だらけです。」
「自動車関連の復調が遅れている。」
「今年に入り受注量がかなり減っている。見通し不明。」
「自動車関連では、AT用のクラッチに関して国内の停滞は変わらないが、北米向けのそれも、去年はトランプ関税の影響で低迷した。徐々に復調しそうだが、元に戻るには時間を要する気配。同じくリチウムイオン電池関係の金型については引合いは多いものの、受注までに時間を要するため、当社の受注環境が復調するにはまだ時間がかかる見込み。新規開拓は進めているが、こちらもまだ時間がかかる気配。」
「売上は目標値に達していないが、社員が2割程削減されたので、生産性が向上し、黒字になっている。」
「自動車業界は比較的不変で安定している。若干の納入単価の引き上げも実施。」
「事業継続の為、若手の人材を募集しても問い合わせがなく、定年退職した従業員を再雇用して会社を廻している。日産自動車関連の受注が減少したものの、それを補うような受注も増えてきており人材確保が今後の要。まずはホームページの内容の見直しを行い、人材確保に努める。」
「以前より、取引先が価格転嫁に協力的になりましたが、在庫を持たなくなり、短納期での注文が多くなった。」
「新規顧客が毎月増えているため、生産が追い付かない状況です。」

<建設業>

「民間は好調ですが、官公庁が競争入札の為受注できない。今後も官公庁受注は期待できない。」
「安定的に公共工事を受注している。」
「首都圏を中心に価格帯が上がっている。」
「材料費、労務費が上り、利益の確保が厳しい。官庁工事についても予算が低く採算が悪くなっている。」
「人手不足と物価高が見通せない。」
「主カタンク工事部門は順調だが、公共工事の落札がここ一年不調であり、化学系タンクの設備投資控えもあり、売上げは減少している。」
「仕事の引き合いはあるが、人が足りなくて断っている状況。」
「高齢化が止まらず、若い人が入ってこない現状がある。長く健康に働いてもらうことを今は大切にしています。」
「受注見積りは多くあるが契約には至らず。人手不足解消せず。」

<卸売業>

「中東問題で、間違いなく更に商売が厳しくなる。」
「円安による輸入価格高騰で、今年度はかなり収益が落ちそうです。」
「R8年の後半は建設工事の受注が減っており、売上高が減少する予想。建設資材の販売は大きい変動は無い。」
「インフレで、仕入れ価格が上昇していますので、売上げは増収でも利益率は下がっています。人件費が上がっているため利益を圧迫しています。人手不足で外国人を採用した。」
「業績不振の理由として、同業者との価格競争と仕入れ価格が高くなっていることが上げられる。」
「物価高により、売上高が減っている。仕入価格も高くなり、採算も悪くなっている。」
「客先の業績悪化に伴う、当社への受注減。」

調査回答企業からのコメント(一部)

<小売業>

「物価高(特に食品)に、当店の衣料品販売が後回しになっている様子。高齢者は、以前のものでガマンしている。また、外出しないために不要。とにかく品物が売れない。」
「1人あたりの単価が減っています。買い控えもあると思います。」
「今年の茶相場と、出回り量が読めず不安なので、安い茶葉を買い集めている。」
「問屋さんからの仕入れ価格が上がっている。仕入れの際の運賃も負担増。」
「商品単価の上昇に、消費がついてこれていない。」
「季節野菜が前年より増えているため購買力が多いが惣菜部門が材料費が上がっている」
「カーナビ、ドラレコの売上減少により、業況悪化。今後も回復が見込めない。」
「人件費が上がっているため、やや人員不足だが新たな雇い入れに踏み出せない。今の従業員には負担をかけるがなんとか効率を上げて頑張ってもらっている。仕入れや仕入れにかかる送料など細かいところの値上げがあり利益を圧迫している。」
「従業員が入院し、人手が減った為そのまま売上に影響した。募集しても来ない為、退院を待つしかない。AIで補える作業はフォローできるが、コミュニケーションが必要な仕事は、人でなければならぬのを実感した。」
「昨年主力商品のコーヒーを2回値上げしたが、利益は圧縮されている。今後も高止まりが続くと予想される中、人件費は上がり続けているため、売上の減少は避けなければならない。」
「原価が上がリ、売価も上げざるを得ない。売価が高ければ買い渋りが起き、新規顧客の開拓も困難。給与を上げたいものの社会保険料の負荷も重く、利益率が上がるわけではないので、なかなか厳しい。」
「仕入れ原価が上がっていて、お客様への価格を上げられないので、不調です。」
「円安の状況が続けば、業績は悪化する。」
「令和7年10月にアスクルシステムにランサムウェア感染し、アスクルがストップした為、アスクルの売上が無く赤字となっていたが、アスクルのシステムが徐々に回復し、昨対比75%まで回復してきた。しかし、離れたお客様が戻ってくるのが不安であり、この先3か月以上は、昨対比が100%に戻らないと予測している。」

<飲食店>

「消費税が飲食店もそのままだと、かなり内食に持っていかれそう。厳しくなってくると思います。」
「サラリーマン家族の来店が減っている。」
「仕入れの値段が上がっていて、売上を伸ばしても、赤字になってしまう。」
「原価高騰につき、利益出ず。人件費上昇、利益なし。」
「国が食料品だけ消費税無しにすると、いろいろなし寄せが予想されます。」
「年末年始はそれなりに良好でしたが、正月明けからは来客数減。仕入れ価格も高値が変わらず。仕入れ先の様子を見ていると、皆さん仕入れ量が少ない感じです。」
「慢性的な人手不足のため、人材確保に苦慮している。」
「年々悪くなっております。」
「売上が伸びないのは、時期的なこともあると思うが、物価高、人件費等、なかなか価格転嫁できないので、難しい。」
「材料が高い。どうなるか分からない。」
「仕入価格が、今後まだ高くなるので、利益をどうやって出すか検討中。」
「仕入れの値上げ。物価高。値上げをしても追いつかない。」

<サービス業>

「価格改定により、業績好調。人手不足は解消せず。」
「大型案件2件の解約があったものの、臨時売上で幾分はカバーできた。値上げ交渉は進捗したものの、最賃改定、材料費高騰には追いつかない状況。」
「やはり物価高によると思われる、顧客の節約ムードが色濃くなってきています。」
「廃業する同業者が多く、この業界の先細り感は否めない。」
「人員不足で、顧客の要望を(来店を)セーブしている。」
「販管費と人件費の過剰な高騰で弊社も厳しいが、どこも似たような感じがする。お客様側も消費意欲が下がっている。」
「値上げにより単価はアップしたものの、仕入れ等も高騰しているため厳しい。もう少し売上があがらなければ、赤字からの脱却は不可能。」
「物価高騰により、食費や水道光熱費など、事業所利用者の生活維持に要する費用が、高止まりの状態が続いている。」
「プラント系は若干好調となっているが、IT系でプロジェクト終了が小刻みにあり、空き要員が出てしまっていて、不調になってきている。」
「Webからの新規問い合わせ件数が増えている。件数も増えているが、問い合わせからの受注率も上がっている。」